

月刊島民

中之島

Vol.89 2015 12/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)

橋を渡る人の「街事情」マガジン

大阪・テレビのはじまり。



ナカノシマ大学

「大阪テレビ、誕生から
終焉までの820日」

川崎隆章

申し込み受付中!

はじまりは、OTVという 堂島の放送局だった。

大阪「に」ではなく、大阪「の」テレビ局をつくる、という「ミッション」。

西日本初となる民放テレビ局は、堂島で開局したことをご存知だろうか。そこでは毎日が試行錯誤、ぶっつけ本番の綱渡りで、局員が現場で頭をひねり汗をかいて番組づくりの格闘する。観る側にもすぐに伝わり、視聴者が急増した。それを可能にしたのは「おもろい番組命」の社風と、新しいメディアを後押しする堂島・中之島の「空気」だった。昭和31年（1956）12月1日に始まったOTVの番組に、少しばかりお付き合いを。

取材文／川崎隆章（放送作家・「大阪テレビ」研究家、協力／大阪大学21世紀懐徳堂）

4社が共同でつくったOTV

NHK大阪放送局（JOBK）がテレビ放送を始めたのは昭和29年（1954）。当時は郵政省（現・総務省）の権限で関西での民放テレビの免許は1社のみの認可に制限していた。そこで朝日新聞・毎日新聞・朝日放送・新日本放送（現・毎日放送）の4社が共同出資して誕生したのがOTV。局舎は現在のANAクラウンプラザホテルの場所で、朝日・毎日両新聞本社から等距離の位置にあった。昭和34年（1959）2月を最後にOTVは朝日放送に合併され、先取り精神に溢れたこの放送局は820日間で終焉を迎えるが、OTVがつくり出した番組制作や「面白がり精神」はその後の大阪のテレビに受け継がれた。※昭和57年（1982）に本放送を開始した現在の「テレビ大阪」とは全くの別物。

写真提供／ABC



1950年代半ばのある日、北浜の料亭に呼ばれた俳優・森繁久弥は、在阪各界の首脳たちから「大阪でテレビを始めることになったので、一度スタジオの設計を見てほしい」という相談を受けた。すると森繁は、勢いついて弁舌を奮い始めた。「大阪」に「テレビ局ができる話ですか？ 大阪」の「テレビ局を作ろう」というお話でしょうか？ 「大阪にも」というお話なら、さしたる関心はありません。しかし「東京のものとはさすが一風変わった、いかにも大阪らしいテレビ局を」というのなら大いに関心があります」と話した後、大胆な提案を行った。「大阪らしいテレビ局を」というのなら、大きなスタジオを作るかわりに、優れたテレビ中継車を5

台用意して、うち2〜3台は、その日の催事や芝居、寄席、競馬、野球を刻々中継し、残りは警察や新聞社に置いて、事件発生とともに飛び出して、随時事件・事故現場から中継したらどうですか？」大阪では既にNHK大阪放送局が実験放送を経て昭和29年（1954）には本放送を始めていた。街頭テレビなども設置されたが、なぜか大阪では東京ほどのブームが起きない。番組のほとんどが「東京からのもの」だったからだ。映画やラジオでおなじみの国民的スターが毎晩登場するのは喜ばれた。しかしニュースは東京中心で大阪や京都の出来事は常に1日遅れ。料理番組のレシピも関西人には味が濃すぎる。そこには地元「大阪」が抜けていたのだ。



かわさき・たかゆき
1964年、大阪府箕面市生まれ。東京在住。1995年にFM文字多重放送専門のディレクターとして放送界に入り、2013年に京阪電車なにわ橋駅のアートエリアB1で開催したOTV研究成果を発表した講座が大盛況に。

そんな中「大阪に朝日・毎日の合併で民間テレビが開局する」というニュースが伝えられた。ひとつとは大いに興奮し、開局前から話題が沸騰した。昭和31年（1956）12月1日、「大阪テレビ放送（OTV）」が大きな期待を背負って開局。そこから約2年半、社員の平均年齢25・5歳という若さで、「大阪らしいテレビ番組」を次々と実現していく。



OTVのマークは「猫の目」と呼ばれ、堂島の社屋からは堂島川を隔てて竣工間近の新朝日ビルが見えた。

大阪を飛び出し、
「富士山頂」、
ヘリコプターから空撮。
中継には金も体も張る。

名物番組が語るOTVの流儀。

短い期間にもかかわらず、確実に「大阪のテレビの原形」をつくり出したOTV。具体的なOTV制作の番組名を挙げながら、その特徴をご紹介します。

流儀のOTV 試行錯誤には 金を出す！

当時は新聞放送とも「予算」という考え方が希薄で、「使った分を積算する」という事実上の使い放題方式。ところがOTVは銀行出身の社長・役員が就いただけあって、予算外の支出には大変厳しかったという。

代わりに技術開発には大胆に予算をつけていたようだ。OTVの技術部は、日々の番組制作に触れながら「まだテレビができないこと」を探しては、夢中になって試作と実験を繰り返した。今では普通だがスポーツや出張中継で大きな機動力を発揮したポータブルカメラ「OTV vision」や、ヘリコプター機上からは不可能とされていた生中継を実現させたマイク波用「電磁ホーン式アンテナ」、画面上を自由に動き回る電子矢印発生装置「電子ポインター」など、その後のテレビの発展に欠かせない技術が堂島の局舎から生まれた。

こうして鍛えた感覚を活かして「へ

りからの実況中継」や「富士山頂から生放送」といった日本初（世界初という説も）の記録を打ち立てていった。

OTVは「特許料をもらったことはあっても、払った記憶はない」という。生み出した知的財産の価値は投資をはるかに超えていた。OTVの予算の組み方をみると、今言う「ファンド」の感覚に通じるものがある。

現場を語る OTV名言録！

- 「前を行くN君の姿が見えない。不思議に思ってたあたりを探すT君の耳に『カメラ！カメラ！』と怒鳴るN君の声だ。肥料溜のなかからカメラを持ち上げて闇夜の入浴、これは大変とN君からカメラを受け取った。人間さまを張り上げなかったT君の商売気をうらんだのはN君の方さ」（安永禎男・報道部／Album OTV「雲仙号墜落事件」）
- 「『雨でもやります。アドリブでいきます』」（レコードのH君。雨の中之島のBGMを大至急出してください）もう30秒前だ。橋の上のカメラマンが雨に打たれている川面のアップをカメラでとらえた。『よっしゃそれや、本番5秒前』（庄野至／Album OTV）

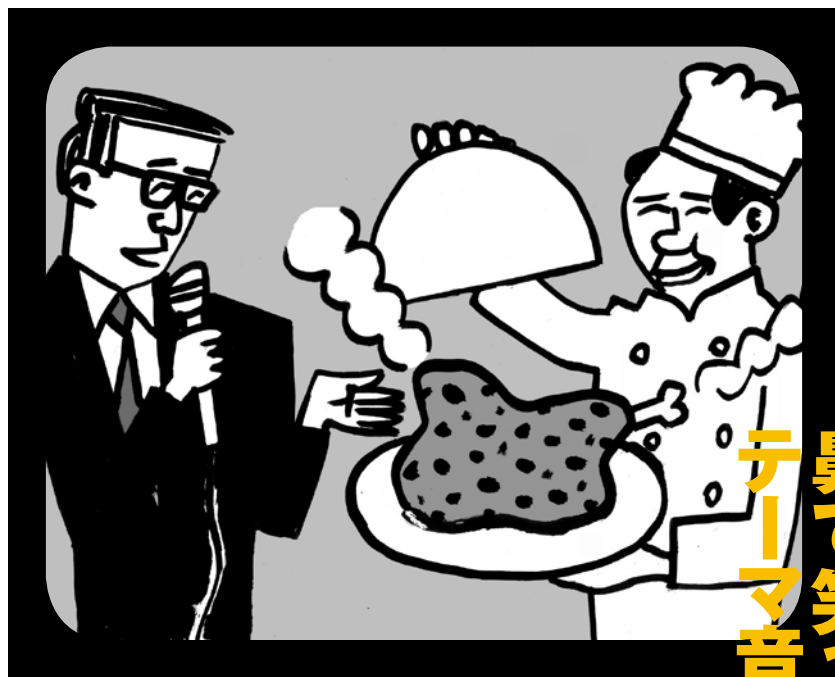
流儀の 「流どころおしり」 の起用でつくった。

OTVを知る人は「粋な放送局やっ
た」と言う。社長・鈴木剛氏からして油
絵を趣味とする美的感覚の高い人であ
った。若鮎からとった「黄色と黒」を局
のイメージカラーに採用したり（タイ
ガースより早い）、局名をアナウンスす
る際、英語風に「チャネル・シックス」
と言うよう提案したりした。

普段、儉約を旨としていたことは前
述したが、自社イベントには大いに使
った。開局初日の記念コンサートでは
大阪歌舞伎座（現在のビックカメラの
場所）の舞台で関西交響楽団、東京交響
楽団、ABC交響楽団の総勢約200
人がベートーベン第6交響曲「田園」
を演奏。そのあとNJBジャズオーケ
ストラと服部良一の伴奏で笠置シヅ子
が歌い、中村八大は流行の「マンボ」を
引っさげてオリジナル曲「マンボOT
V」を発表。最後は辻久子とヘルシャー
による室内楽で品よく締めるといふ贅
沢三味。日本の開局記念番組でこれだ
け金のかかったものはない。

「料理手帖」には、味にうるさかった
鈴木社長の戦略が濃密に盛り込まれて
いた。NHKの料理番組は栄養向上と

経済料理の普及を目指したが、「料理手
帖」は関西の一流料理人を連日招いて、
家庭でもできる一流店の味を普及させ
ようとした。「料理手帖」は80年代半ば
に終了したが、その後もABC制作の
料理番組は生き続け、現在も「上沼恵
美子のおしゃべりクッキング」が全国
放送され、この番組から「関西の一流
店の味」が日本中に広がっている。



「料理手帖」

開局3日目からABC合併を経て、30年近く続いた長寿料理番組。調理専門
学校の講師に、ホテルや百貨店のレストランの料理人らが登場し、「珍しい世
界の料理」や「大阪・神戸・京都に伝わる伝統の料理」をお茶の間に伝授した。

「栄養と経済」のNHKを 鼻で笑った「料理手帖」、 テーマ音楽は服部良一。

OTVの放送開始と終了の音楽は、
当時大人気の服部良一作曲による本格
的フルオーケストラ作品。作曲も収録
も実に金がかかっている。1分間の中
に変奏曲的な要素まで盛り込んだ豪華
な開始音楽はABCとの合併時も廃止

されず、90年代半ばまで使用された。
2013年の夏、ABCラジオで月
曜日の放送開始にこの曲が復活。ラジ
オ専業時代から続くMBSラジオのフ
アンファーレと共に、大阪の早朝を象
徴する「音の遺産」が引き継がれた。

現場を語る OTV名言録！

- 「今年70になる母の便りに『いつもお前の音楽を聴いてから、テレビのス
イッチを切ります』と書いてあった。」（服部良一・作曲家／Album OTV）
- 「OTV開局の時の公演は、バンドの集まりといい、多彩な出演といい、す
べて豪華の一言につきるもので、あのような豪華な買い物ブギをふたたび歌
えることは永久にないと思います。」（笠置シヅ子・歌手／Album OTV）
- 「『結婚したら料理手帖を参考に毎日おいしいお料理を食べさせたい』と
いうロマンチックな感想を送っていた御嬢さんから半年ぐらいたって『昨日の
ビールのおつまみもの、辛党の主人に大好評でした』と寄せられ、次には
『妊娠婦向きの栄養ある献立も放送してほしい』という手紙が来ることもあ
って、こんな時には、私たちの喜びもひとしお、またためいきもその倍くらいで
す。』（土方暁子・事業部／Album OTV）

流儀③ 現場が見えている テレビ局員。



OTVは放送局の壁を超えて視聴者にさまざまなアプローチをした。京阪電車が「テレビ・カー」をデビューさせた当初（1954年）はNHK一局だけの放映だったが、OTVは「通勤

客が多い夜8時前後に京阪提供の30分番組を設定し、車内テレビのチャンネルをOTVにセットする」ことを提案した。いわばこれは街頭テレビの「移動型進化形」ともいえるだろう。

こうして実現した「京阪ゼスチャーゲーム」は、離れた場所から見ても理解できる内容で、どの座席からでも楽しむことができて乗客にも大評判の番組となった。ゲームは必ず「京都の企業vs大阪の企業」のチーム対決であつ

視聴者の臨場感第一、 京阪ゼスチャーゲーム。

流儀④ 何でも自分たちの 手で作る。



人類が月に到達していなかったどころか、人工衛星も打ち上げられてなかった時代、OTVには「シラレン国」という子供向けのドラマがあつた。手本のない「未来の宇宙都市」をどう描くか。頼りになるのは「想像力」しかない。

現在残っている資料によれば、台所用品（！）をうまく組み合わせる宇宙都市の建築物を作り、光の当て方で見事

「シラレン国」

昭和32年（1957）6月より、3ヶ月間放送された全16回の連続探検物語。関西初のSFドラマとして、宇宙船や宇宙人が登場した。主演を務めた子役の長岡秀幸は、その後は任侠ドラマの主演に抜擢されるなどして名を上げた。

「ミナロン・ドリームサロン」

すでに東京で放送されていた「ニッケジャズバレー」に対抗し、「大阪でも本格的な音楽番組を！」と制作された。15分番組だったが、こちらも生放送。歌に合わせて、背景や撮影方法が毎回試行錯誤された。



たから、天満橋行きの客も三条行きの客も夢中になることができた（淀屋橋も出町柳も当時は未開業）。



「京阪ゼスチャーゲーム」

司会者は腹話術師の川上のぼる。人形に鉄道制服を着せて「京阪坊や」と名乗らせ、テレビの番組表にも出演者として載せていた。「天王寺美術館VS京都美術館」「海上自衛隊（大阪）VS陸上自衛隊（京都）」といった京阪対抗戦が話題に。

さらに、列車がカーブにさしかかると、車掌がハンドルを回して車上のアンテナが常に送信所がある生駒山に向くよう調整するという気の使いようで、視聴者も乗客をとことんもてなしていたのである。電車であり、立派な「パブリックビューイング施設」でもあった。日々の通勤車両が、一緒にゲームを見ながらワイワイ盛り上がる「イベント列車」となつて毎日・毎夜走っていたわけで、京阪電車の通勤客は実に贅沢だった。

な俯瞰映像を作っていた。室内のセットには当時珍しかった半透明のガラスファイバー板を用いたが、ガラス繊維の屑で足がチクチクしたという。写真で見ると粗末な造作でも、当時のカメラでこれを撮影すると、美しくリアルティのある立派なSF映像作品が出来上がった。

音楽番組「ミナロン・ドリームサロン」では毎回、歌の背景をセットで組んでいたが、いざとなると（本来なら風景スライドなどを映す）スクリーン・プロセス

の種板に直接筆を当て、パリの街角でもカリブの浜辺でも、自由に、そしてアーティストイックに描いた。世界の風景スライドが自由に手に入らなかつた時代、想像力と体力で道を拓いていった。在阪局の番組は、まさに「想像力」が最大の力になっている。特に80～90年代の在阪深夜番組は、ほとんど「予算を想像力でカバーする」ような番組が多かつたが、これが東京にネット放映され「大阪マニア」を産むきっかけとなった。

「街も衣装も想像力でカバー。
ないものは作ろう」の心意気。

メディア史。

OTVが生まれた当時、中之島界隈には2つの新聞社とラジオ局、大中小さまざまなホールに映画館、出版社まであった。一大メディアタウンの出来事を、改めて振り返ろう。

日本のテレビ放送の黎明期。

大正14年（1925）

欧米を中心にラジオ局開設の動き。アジアでは上海、天津などで盛ん。日本人向け放送も実施された。大阪の朝日新聞社・毎日新聞社がそれぞれラジオ実験放送。百貨店などにラジオを設置し、大評判に。その後、J O A K（東京）・J O B K（大阪）・J O C K（名古屋）の順でラジオ局が放送開始したが、解散後に「日本放送協会」が設立。全国ネットワークの建設にかかる。

昭和21年（1946）

太平洋戦争後、民間放送設立の機運高まる。大阪では毎日・朝日両新聞社が全国放送網の構想を発表。

昭和26年（1951）

9月1日、新日本放送（N J B）と中部日本放送（C B C）がラジオ放送開始。朝日放送と新日本放送、共同で仮称「大阪テレビ放送設立準備委員会」結成。

昭和28年（1953）

1月にN H K（日本放送協会）が東京名古屋大阪間に初のマイクロ波中継回線開通し、翌月に東京で本放送開始。8月、日本テレビ（N T V）の本放送開始。

昭和29年（1954）

3月よりN H K大阪、N H K名古屋、テレビ本放送開始。

在阪メディアが手を組み、OTV誕生。

昭和30年（1955）

ラジオ東京（K R T）、東京の民放テレビ第二局として本放送開始。大阪商工会議所では、大阪テレビ放送株式会社創立総会を開催し、堂島ムジカ喫茶店の2階に分室設置。

昭和31年（1956）

生駒山送信所、本社社屋と演奏所建設地（大阪市北区堂島中1-13）が完成。さらに街頭テレビ第1号（21インチ）を東住吉区に設置。翌日には、27インチ型を中之島公園に設置。

12月1日、本放送開始。

●「京阪ゼスチャー・ゲーム（テレビカー運動）」「野球教室」（阪神球団協力）、ドラマ「大阪の顔」開始。

昭和32年（1957）

12月、OTVへ朝日放送との合併を田中角栄郵政大臣が勧告する。

●花園ラグビー場、甲子園球場などから初中継。大相撲春場所実況中継では、優勝の朝汐にOTV賞「千成大瓢箪」を授与。あまりに重すぎて不評。

●「料理手帖」テキスト発行を告知。発行部数1万5千部。

●ロケーション中継番組「テレビロケーション」放送開始。

第1回は中之島公園。実況中継「自衛隊の朝」で初のヘリコプター機上中継に成功する。

●7月には天神祭を実況中継（天満宮境内と本社屋上からの二重中継）。

1958年、史上空前のメディアタウン、堂島・中之島のとてつもない集中ぶり。

1950年代後半から60年代、闇市の風情がまだ色濃く残る大阪駅周辺を尻目に、堂島・中之島周辺は史上例がない「文化と情報産業」の集積地となっていく。それに拍車がかかるのはOTVが堂島にあった昭和33年（1958）のことだ。

朝日（中之島）・毎日（堂島）・産経（桜橋）の3新聞社がそれぞれ「他社にあるのに自社にはなかった」ものを誕生させた。朝日は新朝日ビルに「フェスティバルホール」と「ABCホール（後のSABホール）」を開業し、来日する巨匠アーティストから人気テレビ番組の公録まで可能なハコを用意した。毎日は毎日会館南館に「毎日ホール」と地下には名画座の「大毎地下劇場」を開業。いち早く「サンケイホール」に音楽・演劇ファンを集めていた産経はこの年、念願のラジオ局（OBC）を開局して7月から本放送を始める。

スーパー・ヴァーグと呼ばれたヨーロッパ映画の名作が上映され、やがてアメリカン・ニューシネマへとつながっていく。海外からカラヤンやベルリン・フィルなどの交響楽団公演が相次ぐ。「良い音楽を安く」と労音（勤労者音楽協議会）がコンサートを開き、ライブの楽しさを広めた。

東洋一と謳われたグランドホテルも新朝日ビルに開業。大阪大学（医学部・理学部など）もまだ中之島にあり、堂島川を隔てて付属病院が威容を誇っていた。大阪商工会議所や出版取次も堂島に存在した。堂島にディスコの前身「ゴーゴー・クラブ」が誕生し、テレビ文化＝若者文化となっていくのはもう少し後のことである。



大メディアタウンの足は市電。四つ橋線も京阪淀屋橋駅もまだ無い時代。



当時をリアルタイムで知る
荒木基次さん
（大阪大学21世紀徳徳堂
特任研究員）

OTV誕生から60年を振り返る 中之島をめぐる大阪

後続局に託し、OTV消滅。

昭和33年(1958)

2月、OTV社内放送で全社員に対し、残留または異動の希望を社長宛に親展の書簡で提出するよう呼びかけがある。6月、新日本放送「毎日放送」に改称。

8月、読売テレビ放送(YTV)に本免許。同局のサービス放送開始に伴い、NTV制作の番組がYTVへ引越。28日、本放送開始。11月、関西テレビ(KTV)本放送開始。

●「料理手帖」野外版「みんなで食べましょ」を生駒山遊園地で開催し、参加者が1600名に。

●特別番組「富士山から実況中継」成功。低酸素高地からの生中継は世界初。

●連続アクションドラマ「部長刑事」放送開始

●「ビルの谷間」(依田義賢脚本)全国放送。第13回芸術祭奨励賞受賞。

昭和34年(1959)

2月、放送呼称を朝日放送大阪テレビに変更。略称「ABC-OTV」。

3月、毎日放送テレビジョン本放送開始。4月、NHK大阪教育テレビジョン本放送開始。

6月、朝日放送株式会社との合併登記完了。ABCテレビとして放送開始。

11月、沖繩テレビ放送開局、略称にOTVを使用。

昭和35年(1960)

ABCとYTV、NHK大阪がカラーテレビ放送開始。

(KTVは1964年、MBSは1967年から)

MBS、千里丘陵に制作機能を移転。登記上の本社は堂島に残された。

昭和41年(1966)

ABC新社屋、大淀南に完成。ラジオとテレビが同じ建物に入る。大淀に新たにABCホールを設け、中之島の旧ホールはSABホールと改称。

昭和50年(1975)

「ネットワーク腸捻転の解消」のためABCとMBSが在京ネット局をいれ替え。大福な番組の引越しがあつた。

昭和63年(1988)

YTV、東天満からOBP内に移転。

1990年

MBS、大阪市北区茶屋町に新本社放送センター完成し、移転。

1995年

阪神・淡路大震災発生。

1997年

KTV、西天満6丁目から「扇町キッズパーク」に移転。

2001年

NHK大阪放送会館、馬場町の角から現在地に移転。

2008年

ABC、福島1丁目「はたるまち」に移転。6月23日から放送開始。

2011年

ABCテレビ、アナログ放送終了にあたり、「OTVシグナルミュージック」を記念放送。

中之島が舞台の、OTV制作全国放送ドラマがあった。

芸術祭奨励賞受賞ドラマ作品の一つである「ビルの谷間」は、頭から終わりまで中之島を舞台にした珍しいドラマの一つである。「東芝日曜劇場」の枠内で全国放送された。深夜の中之島。照明や月明かりで輝く屋上の世界から、近代化の象徴であるビルの谷間を覗くと、そこには時代に取り残されたようなタコ焼き屋台があった。さまざまな事情を抱えた人たちが毎夜集まっては、社会の矛盾や近代の無常感をにじませている。

このドラマは、テーマを象徴する「ビルの高さ」と、屋台の狭苦しさ」を対比させるため、屋台の外では縦の線を強調。箱に入れたたこ焼きが壁添いにスルスルと引き上げられてゆく様子を、ビルの真上から撮影したりもした。まるで芸術映画のような映像であったという。また、このドラマはVTRで収録したものをカミソリで切って編集したために、映画並みの流暢なシーン運びが可能になった。当時、ビデオテープの切り貼り編集は、アメリカでも前例がなく「世界初」ではないかといわれている。

「ビルの谷間」

タコ焼き屋台とビル街という、新旧の大阪を描いた「大阪のプロモーションビデオ」的ドラマ。台本は「1959年刊テレビドラマ代表作選集(清和書院・刊)」に収録。「最初の三分間を勝負」とするラジオ現場での経験が活かされ、冒頭は特に力が入れた。



昭和29年(1954)、テレビが普及するより前に登場していた関西初の「京阪テレビカー」。2013年3月にラストランを迎えた。写真提供／京阪電気鉄道



天神橋六丁目付近に登場したばかりの街頭テレビに群がる人々。プロレスなどの放映が人気で、「お蔭さんで、わしらみたいな貧乏人にも大相撲がみられます」と視聴者から感謝されたという。写真提供／ABC

そ

の後、OTVのDNAはどう受け継がれていったらうか。長寿番組という点では「料理手帖」も「部長刑事」も四半世紀を超える記録的長寿となった。しかし、なんといっても上方の笑いを「テレビの笑い」として送り出したのはOTVの最大の功績だ。

1950年代、東京ではまだ上方の笑いは「珍しい」とされ、ゲテモノ扱いされることさえあった。ところが「びっくり捕物帳」がそれを打ち破り、開始まもなく東京にネットされる。続いて登場した「やりくりアパート」は全国各局で放映され、「食わず嫌い」をひっくり返した。その流れに乗って、YTV、KTV、MBSもそれぞれ「大阪発のコメディ」や「大阪の街を舞台にしたドラマ」で全国に売り出し、その後何度も上方ブームを呼び起こした。

今や、東京あるいは全国では関西の風物はまるで珍しくない。チャンネルを回せば大抵どこかで関西出身者が出演しているし、東京の街中ではたこ焼きも関西風のうどんも（味はともかく）珍しくはない。60年前にOTVが売り出し



「料理手帖」のレシピをまとめた『テレビ料理365日』の中面。12月2日なら、辻勲さん（日本割烹学校梅田校）が「1人分10円」で「温泉湯どうふ」を紹介している。



「部長刑事」

大阪テレビ以降、4シリーズ放送された関西ローカルの刑事ドラマ。放送開始から終了まで、大阪府警本部の全面協力のもと制作された。ショスタコーヴィッチの交響曲第5番第4楽章が冒頭に。当時は「ソ連好き」のスタッフが多かった。

た「大阪」は紆余曲折を経ながらも全国区として定着した。大阪にとっては財産だと言える。今こそ大阪は二の矢を継がなければならない。

合併後も受け継がれた、 「本籍OTV」番組のDNA。

東京に限らず、日本、あるいは世界にとつての「見たことがない大阪」は何だろうか。私や東京在住の大阪マニアに言わせれば、大阪でおもしろいのは「人と視点と旺盛な知識欲」だ。それが中之島界限で今も頻繁に渦巻いている、なんてことは知られていない。世界は大阪についてまだまだ知らない。

OTVが「笑い」という鉱脈を掘り起こしたように、今の在阪局は次の大阪を売り出すための「新しい鉱脈」を発見してほしい。そして、それをテレビ番組という「文明批評の手段」によって、全世界にアピールしてほしいのである。

大阪テレビと合併した朝日放送は昭和41年(1966)に大淀に移るが、平成20年(2008)には堂島川右岸に「里帰り」。



当日は
スタジオセットの
雰囲気です



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懐徳堂
プロジェクト



◎今月の授業

【テレビ事始】

2016年1月講座

「大阪テレビ、 誕生から終焉までの820日」

講師／川崎隆章（放送作家・「大阪テレビ」研究者）

「だれもやったことがない」に命がけ。
視聴者も関係者もアッとさせた
OTVの番組制作現場へプレイバック！

大阪初の民間放送局・大阪テレビ（OTV）が本放送を開始したのは昭和31年（1956）12月。TV放送のノウハウも全くなかった時代に手探りで自前の番組を次々と制作して話題をさらい、その斬新な企画や手法は先発のNHKや日本テレビの関係者をも唸らせた。この放送局はわずか2年3カ月で幕を閉じるが、OTVが残した「大阪発テレビの面白さ」は大阪の放送界にDNAとして生き続けた。

大阪テレビとはどんな放送局だったのか？ OTVに魅せられた東京の放送作家が当時の資料をふんだんに使ってその歴史的価値や、当時の中之島・堂島エリアの街の空気を紹介する。OTV局員だったOB、OGの方々も来場し、毎日がお祭りだった現場の空気を伝えてくれます。



昭和31年（1956）11月30日
毎日新聞掲載

「大阪テレビ、誕生から終焉までの820日」

日時／2016年1月15日（金）

7:00PM～8:30PM頃（開場6:30PM～）

会場／大阪大学中之島センター10F 佐治敬三ホール

受講料／2,000円

定員／180名

主催／ナカノシマ大学事務局

共催／大阪大学21世紀懐徳堂

募集要項

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、FAX、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
「ナカノシマ大学1月講座」受付係 FAX.06-4799-1341

※先着順で受付後、12月18日前後より受講票を発送します。

※受講料は講座当日に受付にてお支払いください。

※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら！→



お問い合わせ ☎ 06-4799-1340
（ナカノシマ大学事務局）

笑う落語の大阪

第二十二回 高島幸次

天満天神繁昌亭がオープンしてから、寄席といえは落語小屋のことだと思っている人が多いという。しかし、寄席とは「軍談・落咄・浄瑠璃などをもって錢を募り、人を集むるの家」(『守貞謾稿』)のことをいうから、落語だけには限らない。

そして、軍談(講談)が中心の枳場なら講談以外の芸を、落咄(落語)の小屋なら落語以外の芸を「色物」として楽しめるのが寄席なのだ。

出演者の名を書いた看板の文字が朱筆であるために色物という大阪では「イロモン」と読むのが正しい。黒門市場を「クロモン」というが如し。

この寄席用語は、本流ではないという意味で、一般社会にも流用されている。斯くいう私も「学界の色物」と称されることが、稀に、いや時々や頻繁にある。研究会では発表内容よりも、笑いをとるオチに工夫を凝らしているのだから自業自得だ。もう本流には戻れそうもない。

色物には、義太夫、浪曲、新内、軽口(万歳)、物まね、曲芸、手妻(手品)など挙げ出せばきりがなくいく

い多彩な芸があるが、繁昌亭では個性的な色物が人気だ。男性の多い噺家さんの合間に、「女道楽」の内海英華が三味線を弾き語ると一気に場が華やぐ。桂あやめ・林家染雀の音曲漫才「姉様キングス」は、白塗りの芸者姿で色物の極みだ。

今月の天神寄席に登場する、旭堂南海(講談師)・宮村群時(書生演歌師)の「書生節」は、テーマの「レ

寄席のイロモン、学界のイロモン。

トロモダン」そのままに、古くて新しい流行歌で楽しませてくれる。さらに、繁昌亭の高座に初登場の「大阪楽団」もレトロモダンな色物として、昭和初期から戦後の名曲を奏しげに演奏する。

そして鼎談のゲストは、同楽団の指揮者であり近現代史研究者でもある古川武志さん。私などは足元にも及ばない正真正銘「学界の色物」だ。

たかしまこうじ
大阪大学招聘教授、追手門学院大学客員教授、大阪天満宮文化研究所研究員などを務める。

ノスタルジーに浸る12月寄席。

天満天神繁昌亭では、土地を提供している大阪天満宮に敬意を表し、毎月25日の夜席を「天神寄席」と銘打ち、さまざまな企画を開催している。今年最後の天神寄席のテーマは、「レトロモダン」。落語あり、歌あり演奏ありと演目も盛りだくさん。特に、ゲストの古川武志さん率いる「大阪楽団」の演奏は、昭和初期の街角にタイムトリップしたかのよう。

当時の若者たちを熱狂させた数々の流行が、現代によみがえる。

●12月のお題は「レトロモダン」 12月25日(金)

「レトロモダン」 な落語会

落語/桂咲之輔「いらち俣」

林家花丸「電話の散財」

旭堂南海・宮村群時「書生節」

桂梅團治「いかけ屋」

大阪楽団「音楽でたどる大阪演芸史」

桂雀三郎「代書屋」

鼎談/古くて新しいのは「

古川武志(大阪市史料調査会調査員)

高島幸次(大阪大学招聘教授)

桂春之輔

蓄音機用のSPレコードコレクターでもある古川武志さん。古き良き味わいを教えてもらおう。

とんちんかんな会話が面白い、桂雀三郎師匠の「代書屋」。創作時期は昭和初期で、意外と新しい。

ナカノシマ大学で前売り券を買うとお得!

「天神寄席」の前売チケットをナカノシマ大学で買くと、2300円で入場できます。いつものナカノシマ大学と同じくウエブ、ハガキ、FAXでお申し込みを受付中。

開催日/12月25日(金)

時間/6:30PM(開場6:00PM)/受付開始5:45PM)

受講料/2300円(通常…前売2500円/当日3000円)

支払い方法/当日5:45PMより、繁昌亭前に仮設の「ナカノシマ大学受付」にて精算。

※予定枚数に達し次第、販売終了します。

※ナカノシマ大学で販売するチケットは前売り券のみです。当日券の販売はありません。

●申し込み方法はP9を参照してください。

●問い合わせ ☎06-4799-1340(平日10:00AM~7:00PM)



イラスト/フジワタモコ



妙高市「燕温泉」

第1回「泉質で楽しむ～にいがた・温泉ビューティ学」

講師／石井宏子(温泉ビューティ研究家・トラベルジャーナリスト)



「温泉は地球がくれた『天然のビューティツール。』」と語る温泉ビューティ研究家の石井さんから見て、日本第3位の温泉地数を誇る新潟県には、いったいどんな魅力があるのでしょうか。新潟ならではの泉質を誇る各温泉地の魅力や、そこでのお過ごし方を紹介します。

いしいひろこ 日本唯一の「温泉ビューティ研究家」として国内外を旅し、温泉地の自然環境や泉質について雑誌やテレビ、講演、大学の授業などで紹介。著書に『おひとりさま温泉』(朝日新聞出版)、『海温泉 花温泉 山温泉』(マガジンハウス)など。



第2回「酒の旅・にいがたを愉しむ」

講師／木村衣有子(文筆家・『のんべえ春秋』編集発行人)



撮影／亀見太治

『のんべえ春秋』というお酒のミニコミ誌を編集発行し、女性誌や文芸誌、グルメ誌など幅広い雑誌に執筆する木村衣有子さんが、国内最多の蔵元数を誇る酒どころ新潟でリスペクトしている酒蔵、居酒屋を通して見えてくる「酒の国・新潟」の奥深さ、楽しみ方を伝授。

きむら・ゆうこ 栃木県出身。立命館大学卒。うまい酒や素敵な酒器、いい酒場を嗅ぎ分け、『のんべえ春秋』編集発行人として活躍。著書に『京都カフェ案内』(平凡社)、『はじまりのコップ』(亜紀書房)、『銀座ウエストのひみつ』(京阪神エルマガジン社)

どうぞ期待! 第3回 2.24(水) 坂本廣子(料理研究家)「朝ごはんから見る新潟の発酵食文化」

第1回「泉質で楽しむ～にいがた・温泉ビューティ学」
2015年12月22日(火)

第2回「酒の旅・にいがたを愉しむ」

2016年1月27日(水)

18:30～20:00 ※いずれも開場18:00

会場／アサヒ ラボ・ガーデン(梅田・大阪富国生命ビル4F)

受講料／無料(新潟県のおみやげ付き) 定員／50名

主催／新潟県観光協会大阪観光センター

協力／アサヒ ラボ・ガーデン

運営／新潟のええとこ・うまいもんゼミナール事務局

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、fax、もしくはナカノシマ大学HP(<http://www.nakanoshima-univ.com/>)内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、faxでお申し込みの方で複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記し、講座名と開催日を必ずお書き添えください。〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4F「関西にいがたゼミ」 Tel.06-4799-1340 Fax.06-4799-1341 ※締切＝12月講座は12.11(金)、1月講座は1.15(金)。応募者多数の場合は抽選。受講票は当選の方のみ、締切から5日以内に発送します。



うまさぎっしり新潟

温泉と美味しいお酒三昧の新潟がより近くなりました。

北陸新幹線の開業で二気に近くなった新潟へ行ってみませんか？
豊富なバリエーションの泉質が楽しめる温泉群と、
国内最多の個性的な酒蔵、絶品の味を堪能する酒場の数々。

今年もやります！
関西人のための「新潟のええとこ・うまいもんゼミナール」

新潟県へのアクセス

- JRの場合(大阪駅から)
・特急サンダーバード→北陸新幹線(金沢駅経由糸魚川駅・上越妙高駅) 約3時間50分
・東海道・上越新幹線(東京駅経由新潟駅) 約4時間30分
- 飛行機の場合(大阪伊丹空港→新潟空港) 約1時間05分
- 車の場合(吹田IC～新潟中央IC)
・名神高速道→北陸自動車道 約6時間30分

第1回～3回の会場は



梅田・富国生命ビル4階の多目的スペース「アサヒ ラボ・ガーデン」。読書にデスクワークにひと休みに……快適かつ使い勝手の

いいフリースペースで大人気です。

11:00AM～8:00PM 日曜休

<http://www.asahigroup-holdings.com/research/labgarden/index.psp.html>

ミ ステリ作家の有栖川有栖さんの
新刊『鍵の掛かった男』。その

舞台は月刊島民と同じ中之島だと言う。本を開けてみてびっくり。第1章のタイトルは「ある島民の死」。もしやと思って読み進めると、なんと「月刊島民」が実名で登場するではないか。これは光栄と、さっそくインタビュー取材をお願いした。

開口一番、「島民は書店で見かけたら読んでいました。創刊した時も知っています。面白い名前の雑誌が出たんだなと思って。だから島民という言葉を使わせてもらったんです」と有栖川さん。大気作家がまさか島民の読者だったとは。鼻が高いことこの上ない。

さておき、肝心のストーリーは、ホテルで長期滞在をしていた男の死から幕が開く。警察は自殺と断定したが、不審に感じたホテルの常連客らが探偵役に真相究明を依頼する。しかし、男の生涯はまるで鍵が掛かったように謎めいていて……。そんな話の舞台が中之島。島民だけでなく、京阪電車中之島線や大阪市中央公会堂など、実際にある建物や道路、川がたくさん出てきて、とてもリアルだ。

中 之島を舞台にした作品は多いが、これほどどっぷりと出てくるの



も珍しい。その理由は何だったのか。

「最初のイメージは、ある都会の小さなホテルに何年も滞在し続けている

ものだった。

「都会ではプライバシーが守られ、みんなが秘密を持っていて当たり前

楽になりましたね」

作品の鍵である、主人公の男が抱える「秘密」。それもまた中之島の都会的なイメージに沿う

かのければ遣唐使や遣隋使の船が通ったかもしれないという中之島はやはりふさわしい。今回は大阪の歴史に関する記述や、『あの事件から何年目』といった描写が多くなりましたが、それは作品の流れとイメージを重ねているのと同時に、主人公の秘密を守る大阪や中之島にも歴史があると示したかったからです。こちらは鍵が掛かっているわけではありませんが、ふだんは忘れている。見ようとしなければ鍵が掛かっているのと同じですからね」

有栖川有栖の新作は、「島民」が主人公だった。

人物が事件に巻き込まれるというものの。そのホテルはどこにあるのがふさわしいかと考えると、都会の真ん中にぽつんとあるのがいんじゃないかと。きっとその人物も孤独で、山奥ではなく都会にいたからこそそれが際立つ。そんな都会的な感覚の小説にしようと思っただけです。そこで中之島が思い浮かびました。中之島は大阪におけるホテルの発祥の地のような場所ですから、そもそもこの物語とつながりがいい。舞台を中之島に設定した後は書くのが

隣に住む人の職業や出身地を知らないのが普通でしょう。中之島はどこから見ても都会です。生活感が希薄で最先端のビルが建っていて、にもかかわらず古いものがよく残っている。推理小説にとっては上質な舞台なんです」

もう一つの主題である「歴史」も、中之島だからこそ深みが増したという。「この作品は主人公の人生を暴くことが大きな部分を占めています。いわば彼の『歴史』を紐解いていくわけです。そんな作品にとって、古代までさ

有栖川有栖『鍵の掛かった男』

(幻冬舎・1,836円)

中之島の西部に時代に取り残されたかのようにひっそりと建つ「銀星ホテル」。そこに5年間滞在していた男が部屋で死んでいるのが見つかった。警察は自殺として捜査を打ち切ったが、ホテルの常連客で大物女流作家の影浦浪子らは不審に思い、ミステリ作家の有栖川有栖と同級生の犯罪学者・火村英生に真相究明を依頼する。果たして男の死は自殺か、他殺か？ 他殺なら犯人は誰か？ 男の人生と共に少しずつ謎が解き明かされていく。真実の向こうに真相が待ち受ける読み応えたっぷり本格ミステリ。人気の「火村英生シリーズ」13年ぶりの書き下ろし。



トウニン月報

2015年12月1日発行



寒い夜にこそぴったりの「大阪・光の饗宴2015」

イルミネーションが美しい季節になった。約4kmにわたってライトアップされた御堂筋を見て、そのほかのプログラムが始まる12月を楽しみにしていた人も多かったろう。

11日(金)からははたるまちを中心に、「中之島ウエスト・スマイルアートプロジェクト」がスタート。堂島川を利用した虹色の大噴水が上がり、橋のライトアップも美しい。中之島

大阪・光の饗宴2015
●中之島ウエスト・冬ものがたり2015
期間/12月25日(金)まで
(プログラムによってライトアップの時間などは異なる)
<http://nakanoshima-west.jp/fuyumonogatari2015.html>

●OSAKA光のルネサンス2015
期間/12月12日(土)～25日(金)まで
会場/大阪市役所周辺～中之島公園
点灯時間/5:00PM～10:00PM※一部コンテンツは4:00PM～
※プレビュー点灯～11日(金)、クロージング点灯12月26日(土)～
2016年1月17日(日) 5:00PM～10:00PM
<http://www.hikari-kyoen.com/coreprogram/renaissance>



大阪市中央公会堂 ONE☆COIN見学会&コンサート2015
日時/12月23日(水・祝)
1:00PM～8:00PM
(最終入場は30分前まで)
入場料/500円
※当日先着300名に、オリジナルクリアファイルのプレゼントあり。

まちみらい協議会といった地元企業団体も光を使った盛り上げに参加し、初めての試みとして、LED電球を包んだ果実袋「ひかりの実」がいくつも一帯の木々からつるされ、今までにない情景となる。

大阪市役所から中之島公園にかけての中央会場では12日(土)より、「OSAKA光のルネサンス」がスタート。歴史的な建築物に、色とりどりの映像を投影した公演が毎年人気だ。さらに中央公会堂館内では、クリスマスの時期におなじみのワンコインコンサートを開催。当日は普段締め切っている南東玄関を特別開放。音楽と共に美しい館内を楽しむ、特別なひとときとなる。(江口由夏・本誌)

中之島という街を再考する 大阪大学シンポジウム

大阪大学が、戦後70年の節目に改めて社会の在り方について考えるシンポジウムを開く。なんとその話題の中心にあるのは、経済と文化、歴史が交差する中之島。蔵屋敷があった江戸時代から、行政やメディアが密集する現代まで、拠点としての中之島を通して、

東北へのフードツーリズムの魅力と意義を知るフォーラム



今でも豊かな海と美しい森の大切さと、それが育む三陸地方の食文化の魅力が語られる。

し、美味しいものを食べに行くこともまた復興につながる。そのきっかけとなるのが今回のフォーラムだ。



島山重篤さん

ナカノシマ大学の協力講座として大阪と神戸で東北フードツーリズムセミナーが開催された。それに続いて12月4日(金)、さらに規模を拡大した東北フードツーリズムフォーラムが開かれる。

基調講演を行うのは、気仙沼で力きの養殖業を営む島山重篤さん。島山さんは理事長を務めるNPO法人森は海の恋人の活動などを通して、海の環境を守るには、そこに注ぐ川やさらにその上流にある森を守ることが大切であると訴えている。今回のフォーラム

東北フードツーリズムフォーラム
日時/2015年12月4日(金)
2:00PM～5:00PM(開場1:30PM～)
会場/中央電気倶楽部 5階 大ホール
参加費/無料 定員/150名
申し込み方法/下記のウェブサイト参照の上、メールかファックスにて申し込みを。当日、直接入場も可能
<http://tohoku.foodtourism.jp/archives/info/151204forum>
問い合わせ ☎075-221-5132(地域計画研究所)



森村泰昌さん

大阪大学シンポジウム「成熟する社会の生態系」
日時/12月20日(日)
1:30PM～6:00PM
会場/大阪国際会議場 12階特別会議場
※無料・要申込(先着順350名)
申し込み方法/Webフォーム、FAX、ハガキ
Webフォーム:http://21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/form_symposium2015
FAX・ハガキ:氏名・ふりがな・住所・電話番号・FAX番号・年代・性別・職業と「2015.12.20参加申込み」と記入のうえ大阪大学広報・学学連携オフィス学学連携課へ
FAX:06-6444-2338
ハガキ:〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-53
大阪大学中之島センター学学連携課シンポジウム担当宛
問い合わせ ☎06-6444-2137(平日9:00AM～5:00PM)

店の名前を冠した「梅蘭焼きそば」。「梅蘭」と聞けば、この名物料理を思い浮かべる人も多いだろう。皿に乗って出てくるのは、中華麺の両面を焼いたもの。しかし「これはなんだ？」と箸でかき分けると、中から肉や野菜たっぷりのあんがとろけ出し、閉じこめられていた美味しい湯気が立ちのぼる。口に運ぶと、香ばしい麺としつとりしたあんの一体感に二重に驚かされる。

「何か個性があるメニューを考えなくては、と創業者が出店時に考案したんです」と店長の陳起春さん。そう、昭和62年（1987）

逆転の発想が生んだ、名物焼きそば。

【梅蘭】 ●上海料理



に横浜中華街で創業した当時からある。上海料理では定番で、日本でも人気だった通常のかた焼きそばは、かたい麺に具入りのあんを上からかけたもの。それを、肉まんの「具を包む」構造にヒントを得て、梅蘭焼きそばは生まれた。少しづつ油を足しながら麺をこ



味や中の具材によって3種類ある梅蘭焼きそばは900円～。写真は海鮮梅蘭焼きそば1,530円。4:00PMまでの平日ランチなら、焼きそばに週替りのメイン、杏仁豆腐が付く1,300円のセットも。

サチャイ
んがり焼き、沙茶醬（干しエビ）

コース料理は一気に充実したが、デザート前の最高潮に出てくるのは、やっぱりこの焼きそば。陳さんが話す「時間が経っても麺とあん、それぞれの美味しさが続く」梅蘭焼きそばと、家族や友人と談笑しながら美味しさを分かち合う円卓は、絶対に相性が良いはずだ。

の10月にリニューアルオープンした店舗内では、その技をゆつたりと堪能できる。というのも、地下階からフェスティバルホールの入口がある2階へと増床して移転し、クイックランチに対応したカウンターメインのレイアウトから大きく生まれ変わったからだ。

や豆板醤などをすりつぶした醬油のような調味料）で別に炒めた具入りのあんを包みこんでさらに焼く。仕上げに、形を整えるために溶き卵を流し込めば、食べごたえも増した一皿が完成。横浜中華街でも珍しく、今では大阪のオフィス街でも愛されるメニューとなった。焼きそばのヒットを足がかりに、梅蘭が取り揃えるメニューは上海料理だけでなく、四川料理や点心といった方面にも広がった。こ



祝 祭 へ よ う こ そ 。

FESTIVAL
PLAZA

<http://festivalplaza.jp/>

提供／株式会社 朝日ビルディング



梅蘭

●中之島フェスティバルタワー2F

今年10月、規模を拡大して現在地に移転。梅肉を使用したオリジナルの酢豚1,403円といったアラカルトメニュー数が大幅に増え、パーティーや宴会など使い道の選択肢がぐんと広がった。五目炒飯やエビのチリソース炒めなどがいただけるフルタイムのセットメニューも健在。

☎06-4708-5725

11:00AM～11:00PM (L.O.10:00PM)

大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅／京阪シティモール／京阪モール／デリスタ天満橋店／ホテル京阪天満橋／ホテル京阪京橋
- 大阪市北区・中央区・福島区 【書店】旭屋書店 梅田地下街店／梅田 鳥屋書店／紀伊國屋書店 梅田本店・グランフロント大阪店・本町店／ジュンク堂書店 大阪本店・梅田ヒルトンプラザ店・天満橋店／MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店／文教堂書店 淀屋橋店／隆祥館書店 【公共施設・大学関連施設など】アイスト／朝日カルチャーセンター／味の素 食のライブラリー／ABC朝日放送／大阪企業家ミュージアム／大阪倶楽部／大阪工業技術専門学校／大阪国際会議場／大阪市中央公会堂／大阪市立科学館／大阪市立総合生涯学習センター／大阪市役所市民情報プラザ／大阪城天守閣／大阪商工会議所／大阪大学中之島センター／大阪21世紀協会／大阪府立中之島図書館／大阪ボランティア協会／大阪歴史博物館／追手門学院 大阪城スクエア・大阪梅田サテライト／川の駅はもけんや／関西学院大学 大阪梅田キャンパス／慶應大阪シティキャンパス／国立国際美術館／CITY NAIL'Sインターナショナルスクール／芝川ビル／市立住まい情報センター／少彦名神社／中央電気倶楽部／ホテルNCB／メビック扇町／立命館大阪オフィス／龍谷大学大阪梅田キャンパス 【店舗・医院など】アンドール 本町本店／上町貸自転車／Ultra 2nd／江戸前焼料理 志津可／天満橋鍼灸整骨院／MJB珈琲店／エルマーズグリーン コーヒーカウンター／大西洋服店／OOO(オーオー)／カセット／喫茶カンテロ／喫茶SAWA／グランスイート中之島／黒門さかえ／コンカフェ／The Court／サウ花店 中之島本店／ザ・メロディ／シアトルベストコーヒー／新開ビル店／じろう亭／Giron's JR／心斎橋山田兄弟歯科／住友病院／セブンイレブン大阪証券取引所店／タビエスタイル／たまがわ鍼灸整骨院／東郷歯科医院／NAKAGAWA1948 淀屋橋店／ナンジャノ／パストラーレ／花かつ／BAR THE TIME 天神／平岡珈琲店／ビルマニアカフェ／FOLK／フレイムハウス／ミニジロー／宮崎歯科／やきとりばかや／吉田理容所／LES LESTON
- 大阪市内その他 【書店】紀伊國屋書店 京橋店／ジュンク堂書店 難波店／福島書店 柳ヶ堂／ループル書店 【店舗・医院など】あじさい／アートアンドクラフト／欧風食堂 ミリパール／大阪シティ信用金庫 江戶堀支店／御舟かめ／Calo Bookshop and cafe／写真とプリント社／鳥かごキッチン／ネイルサロン スワナ／バルビコ／ホテル64オオサカ／MANGUEIRA／Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店／学通堂／Books 呼文堂／水嶋書房 ぐずはモール店／大阪狭山市立図書館／大阪市立難波市民学習センター／大阪大学企画広報社・学連事務室／大阪大学 21世紀懐徳堂／大阪大学本部／摂南大学 地域連携センター／野村呼文堂／郵政考古学会／ゆつたりんこ／連携考房 童子
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店／恵文社 一乗寺店／水嶋書房 丹波橋店／伊丹市文化振興財団／川のほとりの美術館／納屋工房／タバーン・シンポジウム／百練／奈良県立図書館情報館
- 東京 往来堂書店(千駄木)／BOOKSルーエ(吉祥寺)／B&B(下北沢)／隣町珈琲(荏原中延)／ONLY FREE PAPER(渋谷)

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 山崎豊子をあるく。

大阪で生まれ、大阪での新聞記者生活を経てデビューした作家、山崎豊子。
彼女が描いた街の情景を、船場の住人や愛読者、書店員と共になぞる。

●『月刊島民』vol.90は2016年1月1日発行です！

編集・発行人／江 弘毅(編集集団140B)
編集・発行／月刊島民プレス
若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 江口由夏 大迫 力(編集集団140B)
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
制作進行／堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン／山崎慎太郎
表紙イラスト／奈路道程
印刷／佐川印刷株式会社



in KYOTO, on KEIHAN.

